

令和3年
7月30日

病害虫発生予報 8月号

茨城県病害虫防除所

農薬散布の際は事前に近隣農家や周辺住民に連絡しましょう
～令和3年度茨城県農薬危害防止運動期間(6/15～9/14)～

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

| | |
|------------------------------|---|
| 水稲：いもち病（穂いもち）、紋枯病 | 1 |
| 水稲：斑点米カメムシ類（イネカメムシ、クモヘリカメムシ） | 2 |
| サツマイモ：ナカジロシタバ | 2 |
| ナシ：ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫） | 3 |
| 【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測 | 3 |
| 果樹共通：チャバネアオカメムシ | 4 |
| ○シロイチモジヨトウの発生に注意しましょう！ | 4 |

【その他の病害虫】

| | |
|--------------------------|---|
| 水稲、ナシ、ブドウ、秋冬ネギ、夏秋ナス、共通害虫 | 5 |
|--------------------------|---|

II. 今月の気象予報 6

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。



<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

① 7月下旬現在、葉いもちの発病度¹⁾（本年値 5.1、平年値 2.6）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 77%、平年値 39%）は平年より高い。

1) 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は、発生に注意する。
- ② 穂いもちを対象とした液剤による防除適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。
- ③ 葉いもちが上位葉で多発し、出穂期に降雨が続いて穂いもちの多発が予想される場合には、収穫前日数等に注意し、傾穂期（穂揃期 10 日後頃）に追加散布を行う。
- ④ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を選択する。

2. 紋枯病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

① 7月下旬現在、紋枯病の発病度（本年値 0.3%、平年値 0.1%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 9%、平年値 6%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 病斑は水際に近い下位の葉鞘から現れ、次第に上位に進展するため、薬剤散布は下位の葉鞘にまでかかるように行う。
- ② 前年発生がみられた圃場では本病が発生しやすいため特に注意し、発生が認められた場合には早期に防除を行う。なお、収穫前日数に注意する。

(水稻 続き)

3. 斑点米カメムシ類(イネカメムシ、クモヘリカメムシ)

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水田内におけるイネカメムシの10回振りすくい取り虫数(本年値0.22頭、平年値0.04頭)は平年より多く、発生地点率(本年値14%、平年値2%)は平年より高い。
- ② 7月下旬現在、水田内におけるクモヘリカメムシの10回振りすくい取り虫数(本年値0.36頭、平年値0.45頭)、発生地点率(本年値7%、平年値12%)はともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 不稔被害の軽減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期に行う。出穂期前後の圃場で成虫や幼虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、出穂後10～15日頃(乳熟期)に行う。
- ③ 発生量が多い地域は、出穂期～穂揃期と乳熟期の2回散布を検討する。
- ④ ふ化直後の幼虫は非常に小さく、気がつかない場合があるため、水田内をよく観察する。
- ⑤ 晩生品種等、周辺より出穂の遅い水田では、成虫の飛来が集中し、不稔等の被害を及ぼす恐れがあるので注意する。

(令和3年7月9日発表 病害虫速報 No.3 参照)

(令和3年7月30日発表 病害虫速報 No.4 参照)

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、被害つる先率(本年値8.8%、平年値6.6%)、発生地点率(本年値80%、平年値48%)はともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本種は、9月上旬頃から発生する第三世代幼虫の被害が最も大きいので、早めに圃場を観察し発生に注意する。
- ② 老齢幼虫になると防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期(つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期)の防除に努める。
- ③ 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう丁寧に散布する。

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫）

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| — | 平年並 | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、調査圃場のナシ果実において、被害果を認めず平年並である。
- ② 7月下旬までのフェロモントラップへの第二世代成虫の総誘殺数は、かすみがうら市および土浦市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種（「幸水」等）で被害が認められた場合は、中生～晩生品種（「豊水」や「新高」等）で被害が多くなる傾向があるので注意する。
- ③ 薬剤は、10a当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、葉液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際は、収穫前日数等に十分注意する。
- ⑤ 薬剤散布の時期については、下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、**第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後**である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。
※薬剤散布の際には、収穫前日数等に十分注意する。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

| 地点 | 第四世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾ | | |
|-----------|-----------------------------|---|-------|
| 笠間市（旧友部町） | 8月11日 | ～ | 8月13日 |
| 小美玉市 | 8月7日 | ～ | 8月13日 |
| 石岡市 | 8月8日 | ～ | 8月12日 |
| かすみがうら市 | 8月8日 | ～ | 8月12日 |
| 土浦市 | 8月12日 | ～ | 8月17日 |
| 筑西市（旧下館市） | 8月8日 | ～ | 8月13日 |
| 筑西市（旧関城町） | 8月8日 | ～ | 8月13日 |

1) 第三世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(7月25日現在)。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| — | やや少ない | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率は平年並である。
- ② 7月第4半旬までの予察灯への総誘殺数は、かすみがうら市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤散布を行う。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ③ 今後、果実が肥大するカキやリンゴの圃場では、カメムシ類が飛来する恐れがあるので注意する。

シロイチモジヨトウの発生に注意しましょう！

7月下旬現在、夏ネギ調査圃場において、シロイチモジヨトウによる被害を確認しました。

シロイチモジヨトウはネギの主要害虫ですが、キャベツ、ハクサイ、レタス等の野菜や花き類も加害する広食性の害虫です。

例年、秋にかけて発生が増加しますので、今後の発生に十分注意しましょう。

【防除上注意すべき事項】

- ① 圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努める。中齢以降になると、薬剤の効果が低くなるだけでなく、作物内に食入し薬剤が届きにくくなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② 結球葉菜類では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、結球始期前後の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 令和2年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。
(令和3年3月24日発表 病虫害発生予報4月号 p7-8 防除所レポート参照)

【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名 | 発生予測 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|------|------------|-------------------|---|
| 水稲 | ニカメイガ | 発生量：多い | 7月下旬現在、平年より多い発生である。 |
| | イネツトムシ | 発生量：平年並 | 7月下旬現在、平年並の発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始める時期）に防除を実施する。 |
| ナシ | 黒星病 | 発生量：平年並 | 7月下旬現在、平年並の発生である。 |
| | ハダニ類 | 発生量：やや多い | 7月下旬現在、平年よりやや多い発生である。 |
| | クワコナカイガラムシ | 発生量：－ | 7月下旬現在、一部圃場で発生を認めている。 |
| ブドウ | 褐斑病 | 発生量：平年並 | 7月下旬現在、平年並の発生である。袋掛け後の防除を徹底する。 |
| | 灰色かび病 | | |
| | 晩腐病 | | |
| | べと病 | | |
| 秋冬ネギ | さび病 | 発生量：－ | 7月下旬現在、夏ネギにおいて平年よりやや多い～多い発生である。 |
| | 軟腐病 | | |
| 夏秋ナス | アザミウマ類 | 発生量：やや少ない | 7月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。 |
| 共通害虫 | オオタバコガ | 発生量：平年並 ～やや多い | 7月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は平年並～やや多い。 |
| | ハスモンヨトウ | 発生量：平年並 ～やや少ない | 7月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は平年並～やや少ない。 |

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月31日から8月30日)

気象庁(7月29日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

| [確率] | 要素 | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|------|--------|---------|-----|--------|
| | 気温 | 関東甲信全域 | 10 | 20 | 70 |
| | 降水量 | 関東甲信全域 | 30 | 30 | 40 |
| | 日照時間 | 関東甲信全域 | 30 | 40 | 30 |

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 7月31日(土曜日)から8月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 8月7日(土曜日)から8月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 8月14日(土曜日)から8月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。